



名古屋市鶴舞中央図書館 奉仕第二係

平成27年10月発行

名古屋市鶴舞中央図書館 2階展示スペース

あの人の 書いた文字

平成27年10月17日(土)～12月6日(日)

歴史上のあの人は、いったいどんな字を書いたのか。私の大好きなあの作家は、どんな文字で原稿用紙を埋めていたのか…

いろんな人の書いた文字の出てくる資料を集めました。けっして名筆ではないけれど、味のある文字が並びました。



貴重書庫の中から、伊藤圭介の手紙二通

幕末から明治に活躍した、日本を代表する植物学者・伊藤圭介の手紙を二通展示しています。今回の展示資料のなかでは、オリジナル(原本)の資料はこの二点です。

一つは父である西山玄道にあてた巻物の手紙(『伊藤圭介書翰』)、もう一つは友人の横井時冬にあてたメモ書きのような手紙です。こちらの手紙は、植物画の巻物二巻に添付された形で残っているため、当館では『伊藤圭介図案稿』として整理されています。(いずれも書かれた年代は不明です。)

郷土の三英傑

郷土の誇る三英傑はどんな字を書いていたのでしょうか。はたして三英傑それぞれの筆跡は、あの鳴かないホトギスに対する三者三様の対応をうかがわせるようなものなのでしょうか。(信長の真蹟はまとまった資料がないため、いくつかの書道関係の全集から選んできました。)

以前に大変話題になった、信長から秀吉の妻おねにあてた手紙の原文の画像は、当館所蔵の資料の中には見つかりませんでした。作家の杉本苑子氏がこの信長の手紙をとりあげて、信長の性格について考察している資料(『歴史を語る手紙たち』)がありますので、どうぞご覧ください。



また、名古屋市博物館が秀吉の膨大な文書を調査した、『豊臣秀吉古文書集』の刊行が始まっています。興味のある方はぜひご一読ください。

各分野の巨人たち

博物学の南方熊楠、漫画の手塚修虫、ナポレオン一世という各分野の巨人たちの資料です。とりとめもない選定ですが、熊楠の、細密なスケッチにびっしりと書き込まれた英語の文字や、手塚のあふれる想像力・創造力には、ファンならずとも目をみはるものがあります。おまけのように、ナポレオン一世の手紙も出してみました。サインのみが直筆ということです。

作家の手跡

まだ原稿用紙を万年筆で書いた文字で埋めていたころ、さらにそれ以前の、筆で和紙に綴っていたころの作家の手跡がわかる資料です。今回の展示では、松尾芭蕉、樋口一葉、芥川龍之介、島崎藤村、志賀直哉、高村光太郎、筒井康隆をとりあげています。

さらに、ガラスケースの前には『複製近代作家手稿100選』を展示してあります。明治から現代にいたる81人の作家の102の作品の手稿が複製され、一冊にまとめられています。